

商店街カUP!の秘訣とは?

3商店街の会長と理事長に、商店街運営のポイントや活性化方法、将来への展望をお聞きしました。



上溝商店街振興組合
清水紳一郎 理事長

親子が安心できるまちづくり

商店街は、まちづくりの拠点となるべきであると考えます。自分たちの商店街だけでなく、周辺地域にも目を配り、連携を図るとともに助け合えればと考えています。私自身、地域福祉に長年携わってきた中で、子供の暮らす環境、親子の暮らす環境を整えていくことがまちの賑わいにもつながっていくと考えておりましたので、「かみみぞ ひだまり」が地域で機能しているということは、喜ばしく思っております。上溝は今後、小田急多摩線の延伸という転換期を迎えます。まちを取り巻く環境が大きく変わっていく中で、多くの人で溢れ、活気に満ちた商店街を目指します。



東林間商店街振興組合
大石方哉 理事長

学ぶことを怠らず地域に還元

商店街の運営には、学ぶ姿勢と透明性が重要だと思っています。会計やりりんカードのポイント管理など、運営していく上で曖昧なところがあると、組合内部だけではなく足を運んでくださるお客様にも影響していきます。内情をしっかりと把握して、改善できるところは改善していく。他の商店街などへの視察や研修も充実させ、色々なことを吸収していきたい。新しく商店街に入ってきたお店にも顔を出し、若い人たちの活躍も見守りたい。「東林間サマーわぁ!ニバル」を始め、イベントを続けていくことは簡単ではありませんが、地域一丸となって守っていきたいと思います。



サウザンロード相模台商店街連合会
鹿島孝雄 副会長

新しいものを取り入れ次の世代へ

長く地域に根付いている商店街では、いかに次の世代へ引き継げるかがカギであり、また課題でもあります。若い世代と向き合うにあたっては、時代にあったツールでのやりとり、具体的には、パソコンやスマートフォンを用いてSNSなどで連絡を取り合うといったことも歩み寄りと言えるのではないのでしょうか。また、商店街の活性化へのアイデアは、役員会などでの、所謂「ぼやき」からヒントを見つけることもできるのではないかと考えています。色々な場所で様々な意見を耳にし、やれることはやっておけるように努めていこうと思っています。

さがみはらクリーン大作戦実績

- 第13回 (平成26年9月21日~27日実施)
参加商店街: 31商店街等 参加人数: 679人
(商店街: 530人 協力団体等: 149人)
- 第14回 (平成27年3月17日実施)
参加商店街: 29商店街等 参加人数: 696人
(商店街: 566人 協力団体等: 130人)
- 第15回 (平成27年9月13日~10月3日実施)
参加商店街: 31商店街等 参加人数: 658人
(商店街: 538人 協力団体等: 120人)
- 第16回 (平成28年3月16日~22日実施)
参加商店街: 31商店街等 参加人数: 743人
(商店街: 476人 協力団体等: 267人)
- 第17回 (平成28年9月10日~19日実施)
参加商店街: 29商店街等 参加人数: 709人
(商店街: 484人 協力団体等: 225人)

商店街会員数の推移

	H24 会員数	H25 会員数	H26 会員数	H27 会員数	H28 会員数
総商店会数	63	60	60	59	58
総商店会 会員数	2,239	2,179	2,126	2,071	2,045

さがみはら 商店街カUP! だより 第10号

発行日 平成29年3月10日 発行 相模原市商店街地域貢献活動推進協議会、相模原市商店街加入促進連絡協議会
事務局 相模原商工会議所 産業振興課 〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3 TEL.042-753-8136 FAX.042-753-7637

商店街カUP! だより 第10号

第18回

さがみはら クリーン大作戦

3月12日(日)~18日(土)実施

市内の商店街・団体等がまちを一齐清掃します



地域の行事として
着実に浸透中!



さがみはらクリーン大作戦とは・・・

平成20年から毎年春と秋の2回実施しており、
今回で第18回目を迎えます。

地域とつながる商店街

地域に密着した商店街では、それぞれ独自の事業を展開し、地域の活性化に努めています。そんな取り組みが評価され、第5回「**かながわ商店街大賞**」にて**上溝商店街振興組合が大賞に、東林間商店街振興組合が準大賞**に選ばれました。今回は、その二商店街を含む三つの商店街で行われている事業をご紹介します。

上溝商店街振興組合



親子にふれあいの場を

明治初期から市場が開かれていた上溝地区。「歴史と潤いのある街・上溝」をキャッチフレーズに、102店舗で構成される上溝商店街振興組合は、歴史ある行事と地域に寄り添った事業が評価され、第5回「かながわ商店街大賞」で大賞を受賞しました。

独自の事業は、平成22年3月25日に空き店舗を活用してオープンした、子育てサロン&交流広場の「かみみぞ ひだまり」の運営です。0～3歳までの幼児を対象とした子育てサロンであるとともに、お茶会などで地域の方々が交流できる場としても機能しています。

登録ボランティアと、保育士資格のある専任スタッフの3、4名がサロンに常駐し、お誕生日会、工作教室など各種講座を開催しています。「かみみぞ ひだまり」は、地域の親子にとって心強く、楽しめる施設として、地域に浸透しています。

清水紳一郎理事長は、「住んでいる地域で、幼い子を抱えた母親が集まり、子育ての相談ができる場所があればと、かねてから構想はありました」と話します。

また、毎年7月下旬の土・日に開催される「夏祭り」は、江戸末期から続く歴史と伝統あるお祭りです。古くから上溝に伝わる御輿や山車が周辺の各町内会から集まり、大勢の人で賑わう商店街を練り歩きます。

この夏祭りで披露される「上溝シャンソン」は、約80年前に上溝で生まれた幻の曲。組合メンバーの方が偶然に歌詞を発見したことをきっかけに、「上溝シャンソンを復活させる会」を発足。親しみやすい盆踊りとして復活させました。

その他、9月の「サンマ祭り」、11月の「酉の市」に加え、年初に行われる「だるま市」も目玉イベントの一つとなっています。毎月第3日曜日の「朝市」、年に数回の第5日曜日に



多くの人出がある朝市

に行われる「骨董市」も盛況です。

商店街大賞の受賞について清水理事長は、「商店街大賞を受賞できましたのも、全ての事業に携わってくださった皆さんのおかげです。組合メンバーやボランティアさん、地元自治体といったまちの皆さんに感謝し、今後も絆を深めて地域づくりをしていきたい」と感謝を述べました。



盛大な夏祭りの様子

東林間商店街振興組合



地域一丸の大イベント

第5回「かながわ商店街大賞」で準大賞を受賞した東林間商店街振興組合には、小田急線東林間駅周辺の180店舗が加盟しています。

最大の事業は、毎年8月第一土・日曜日に開催する阿波踊りの祭典「東林間サマーわぁ!ニバル」です。開催はこれまで25回を数え、昨年も約15万人の人出がありました。今では相模原市内のみならず、神奈川県内でも有数のイベントに成長しています。

商店街、近隣の各自治会、近隣の中学校や野球チームの連合会など、多くの人々が協力してイベントは開催されています。

イベントを支えるボランティアサポーターは二日間で約900名。昨年度の出場連(阿波踊りの団体)46連。地元からも6連が参加と、阿波踊りは文化として東林間に根付いています。

大石方哉理事長は、「多くの参加者、来場者呼び込めるのも、地域が一丸となっていてこそ。参加する連の方々も設営や清掃などに協力してくれます。関わる人たち全員の方で作っているイベントです」と胸を張ります。

毎年11月3日の文化の日に行われる「わぁ!ぷりーず けんちん祭」は、無病息災を祈願し、地域の方々にけんちん汁を振舞うイベント。チャリティー朝市やスタンプラリー抽選会も同時開催され、多くの地域住民が集います。

各イベントでは募金活動も実施。集まった募金は日本赤十字社や社会福祉協議会を通じ、東日本大震災や熊本地震の被災地へ届けられています。

普段のお買い物でポイントの貯まる「満点カード」で、お買物券、交換会、中元・歳末の大抽選会に参加できるといった多様性を持ち、来訪客を増やす一助となっています。

地域に愛されるイベントを擁し、そのイベントで触れ合った人々が商店街を訪れる。そんな理想的な循環が東林間商店街では生まれています。

商店街大賞について何うと、「商店街大賞には初めて応募しました。自然体の東林間商店街を評価していただけたと思いますので、準大賞を受賞できたことは自信につながります」と大石理事長は笑顔を見せました。



クリスマスにはサンタも来訪

サウザンロード相模台商店街連合会



地域に寄り添う商店街

59店舗が加盟するサウザンロード相模台商店街連合会。小田急線小田急相模原駅から相模原病院まで延びる全長1kmの街路に位置していることから、1000(サウザンド)にかけて命名されました。

昭和20年代から商店が目立ち始めた小田急相模原。43年頃には街路灯などが設置され、現在のような商店街が形成されました。以来、地元密着した商店街として愛されてきました。鹿島孝雄副会長は、「長らくご贖買くださっているお客様と共に、サウザンロード商店街は歴史を刻んできました」と話します。



街灯に設置された防犯カメラ

駅と病院とを結ぶ街路であることから、人の往来も盛んなサウザンロード。連合会では3年前、街灯に防犯カメラを設置し、安全面にも気を配っています。

お買物券の抽選会を開催する4月と10月の「スーパーセール」の他、お中元時期と歳末にもセールを開催。一昨年には9月～12月にスタンプラリーを行うなど、商店街らしい催しを心がけています。

今後は地域の高齢化問題にも目を向け、連合会で「認知症サポーター講座」を受講する予定だそうです。

近年、認知症を患った方の徘徊や無意識の行動によって、家庭内だけでなく街中でのトラブルも増えており、商店街での講座受講は全国的にも増加傾向にあります。「無用なトラブルを避けるだけでなく、商店街が地域の一部として見守り活動に参加するという意識を共有できればと思っています。理解があれば冷静に向き合えますし、お客さまにかわりはありません」と鹿島副会長。お客様一人ひとりと向き合う、商店街の取り組みです。

連合会の中では、「パソコン教室」も開かれています。最近では、スマートフォンの操作方法も講座内容に含まれるようになったそうです。鹿島副会長は、「連合会でのコミュニケーションを潤滑にするため、使えるものは使っていきたい。こうしたことがきっかけで、意見交換の機会も増えていけば嬉しいです」と期待を寄せます。



地域を盛り上げる「スーパーセール」

地域に寄り添うサウザンロード商店街の取り組みは、人と人とのつながりを重視していました。